

## (報告) うきは市人権フェスティバル



12月6日、白壁ホールで、うきは市人権フェスティバルが開催されました。会場では、市内小中学生や人権擁護委員による人権に関する展示やDVD上映、講演会が行われました。

DVDは、北朝鮮人権侵害問題啓発週間(12/10~12/16)に合わせ北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」を上映しました。

拉致された横田めぐみさんとその家族の心情等が描かれ、「当時の出来事を分かりやすく知ることができた」と好評でした。

講演会は、「コロナ禍と人権～差別や偏見はなぜ起こる～」と題して東洋大学社会心理学科教授、北村英哉さんの講演でした。偏見や差別のメカニズムの説明があり、「差別がどのようにして起こるのか差別の構造を考えさせられました」などの意見をいただきました。

今年も差別のない人権が尊重される社会の実現において、さまざまな機会を通じて人権についての理解を深めていきましょう。



## ご存じですか、シトラスリボンプロジェクト

●問合せ:[citrusribbonfromehime@gmail.com](mailto:citrusribbonfromehime@gmail.com) (ちょびっと19+) Facebook : citrusribbonfromehime

ただいま、おかえりって言いあえるまちに

みんなで  
広げよう、  
シトラスリボン  
プロジェクト。



Citrus  
Ribbon  
PROJECT

※実際の色はシトラス系の色です

●問合せ 人権同和対策室 ☎75-4984

シトラスリボンプロジェクトとは

コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志がつくったプロジェクトです。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場(もしくは学校)です。

「ただいま」「おかえり」と言いあえるまちなら、安心して検査を受けることができ、ひいては感染拡大を防ぐことにつながります。また、感染者への差別や偏見が広がることで生まれる弊害も防ぐことができます。感染者が「出た」「出ない」ということ自体よりも、感染が確認された“その後”に的確な対応ができるかどうかで、その地域のイメージが左右されると、考えます。コロナ禍のなかに居ても居なくても、みんなが心から暮らしやすいまちを今こそ。コロナ禍の“その後”も見すえ、暮らしやすい社会をめざしませんか？